



“Pure CS” Project Photo Letter



No. 22, May 2020

今回はDOAのプロジェクト対象地域のC/PがSNS上に公開している投稿から、現地でのC/Pの活動の様子をお届けします。プロジェクトが不在、かつ、コロナ感染対策制約下でも、試行錯誤を行いながら前進する努力は立派です。プロジェクトでも、日本からどのような後押しができるか考え、アクションを取り始めようとしています。

DOAのビデオ会議 (写真引用：左・中 Facebook MOALI公式ページ。右：U Htay Lwin (Ayeyarwady Dy, Director)。DOA本省と各地域・州事務所ともZoomで繋いだ会議が行われてます(写真左・中)。また地域と県事務所で携帯電話からフェーズブックメッセージでのビデオ会議が試みられてます。しかし県・郡レベルでは、ビデオ会議可能なパソコンが無い上、ネットインフラが脆弱。DOA職員もIT化についていけず、デジタル格差が発生しています。プロジェクトでも何とか後押しできないかと知恵を捻ってます。



コロナ対策の制約の中でも現地の普及員は感染対策をしながら活動を実施中。(各写真は郡、県種子担当者のFacebookから引用)

農家との会議 ヒンダガ県インガブ郡で、ソーシャルディスタンスをとった種子生産農家との会議。皆マスクして対策もばっちり。

RSの配布 モウビン県では5月に入らずに、RS(青色のタグ付)が種子生産農家へ配布開始されました。

普及ポスター シュエポー県タゼー郡DOAの普及ポスター掲示板。プロジェクトが配布したCS啓発ポスターも貼ってます。「いいね」



SNSでのビデオ教材 ザガイン地域では専門技術員さんが各技術分野について解説。そのビデオをフェーズブック上にアップしてます。種子分野はC/PのDaw Min Min Thanが登場。

プロジェクトのビデオ会議 当プロジェクトでもビデオ会議システムを活用して現地スタッフやDOAのカウンターパートとの円滑なコミュニケーションを図っています。

フルコース? コロナ禍前、今では懐かしい地方出張時の昼食での一枚です。卓上に様々な味付けの肉や魚、野菜のおかずが並び、皆で分け合います。ミャンマーの楽しみの一つです。



新型コロナウイルスの感染は日本、ミャンマーとも落ち着いてきたように思えます。油断はまだできませんが、一日も早く現地渡航が再開しミャンマーの人々と共に活動ができる日を心待ちにしています。FBアカウントをお持ちの皆様は、公式サイトも是非ご訪問ください。URL (<https://www.facebook.com/jica.pure.cs.project/>) (編集委)